第23回独立行政法人農林漁業信用基金農業信用保険業務運営委員会　議事概要

１　日時及び場所

（１）日時　　令和８年１０月６日（火）１５時３０分～１７時０８分

（２）場所　　東京都千代田区内神田１－１－１６　大手町ゲートビルディング５階
独立行政法人農林漁業信用基金　大会議室

２　出席者

（１）運営委員（出資者・学識経験者別　五十音順）
出　資　者：尾崎委員、片山委員、笹本委員、鈴木委員、松元委員
学識経験者：梶岡委員、田村委員、中谷委員、牧之瀬委員

（２）信用基金
牧元理事長、平山副理事長、平岡総括理事、山﨑理事

（３）オブザーバー
農林水産省経営局金融調整課　白石課長
財務省大臣官房政策金融課　酒向課長補佐

３　提出議案

（１）報告事項
①　令和７年度に係る業務の実績に関する評価について
②　令和７年度決算について
③　令和８年度の農業信用保証保険業務の概況について

（２）情報提供事項
①　農業施策について
②　委員からの情報提供

（３）その他

４　議事経過の概要及びその結果

上記３（１）について信用基金から報告が行われた。その後、上記３（２）について農林水産省及び各運営委員からの情報提供及び意見交換が行われた。また、上記３（３）として信用基金から「農林漁業信用基金のあるべき姿」について紹介が行われた。

運営委員からの主な質問・意見は以下のとおり。（カッコ内はこれに対する説明。）

【質問・意見等】

（１）報告事項
①　令和７年度に係る業務の実績に関する評価について
（質疑なし）
②　令和７年度決算について
（質疑なし）
③　令和８年度の農業信用保証保険業務の概況について
（質疑なし）

（２）情報提供事項
①　農業施策について
○　農林水産省より、農業近代化資金融通法の改正・施行について情報提供があった。

② 委員からの情報提供

○　農林中央金庫法改正により農林水産業者への資金融通が位置付けられたことを受け、融資枠や出資枠の拡充を通じて農業分野への資金供給を強化する。また、農業近代化資金の活用に向けて、ＪＡバンク・行政・保証機関が役割分担をしながら、より一層の連携に取り組んでいく。

○　保証実績の大部分を住宅資金が占める中、ＪＡバンクと連携しながら保証業務を推進している。一方で、農機フェア等のイベントやＰＲ活動を通じて制度融資の利用拡大に努めており、職員の取組により実績は着実に伸びている。今後は住宅ローンを取り巻く金利上昇や代位弁済リスクも見据えながら、協会全体の事業拡大の方向性を検討していく。

○　当県の農業は水稲が中心で、コシヒカリに加え「いちほまれ」の普及拡大や六条大麦の生産振興に取り組んでいる。基金協会の保証残高は近年大きく増加しており、住宅ローンを中心に、農業資金についても着実な伸びを見せている。今後もＪＡと連携しながら事業拡大を図るとともに、北陸新幹線延伸による地域活性化も追い風として期待している。

○　大規模な土地利用型法人や施設園芸経営の資金需要を踏まえ、近代化資金の無担保・無保証人枠の拡大に向けた制度整備を進めている。県と連携しながら利子助成制度等の協議を進めるとともに、融資機関やＪＡへの説明・周知活動を実施する予定である。今後は信連・ＪＡ・基金協会が一体となって制度の活用促進を図り、来年度からの本格的な利用拡大につなげていく考えである。

○　県の手厚い利子助成を背景に農業近代化資金の活用が進んでおり、施設整備や機械導入等を中心に高い利用実績を上げている。今回の農業近代化資金融通法改正を受け、県・ＪＡ・基金協会が連携して借入限度額引上げ等に対応し、さらなる利用促進に向けた制度整備を進めている。また、ＪＡ統合等に伴う金融環境の変化も踏まえ、公庫資金から近代化資金への利用シフトによる需要拡大を期待している。

○　豪雨や台風による農業被害を受けた生産者の資金繰り支援や施設復旧に向けた融資対応を最優先で進めている。当県は全国有数の農業県であり、融資残高・保証残高ともに増加傾向にある中、有事対応支援と成長投資支援の両面から農業経営を支援している。また、専門部署の設置や農業法人の運営などを通じて、地域農業の維持・発展に積極的に取り組んでいる。

以上